

所報

No.145
令和7年2月14日

富山県総合教育センター

富山市高田525

E-mail: center@tym.ed.jp (代表)
URL: https://www.center.tym.ed.jp

目次

- 巻頭言 1
- 各部の研修・事業風景、センターNews・・ 1
- 調査研究事業の概要 2～3
- センター事業より 3～4
- 随想(中川学力向上アドバイザー、野崎教育研修部長)・・ 5
- 連載「知って得06」 6

巻頭言

「こどもまんなか」と「コーチング」

副所長 岩城 圭一



「楽しんで。」

100年ぶりのパリオリンピック大会でよく選手が口にした言葉である。普通の感覚であれば、楽しむとは何かをすることによって喜びや快感を味わい、心から満足する状態であるが、オリンピックの大舞台で「楽しむ」とはどのような状態なのか。試合の直前であれば、「がんばれ」「がんばって」という言葉を誰もがかけたくがるが、よく考えると声をかけられた本人は、何をどのように頑張ればよいかわからないというのが本音である。本人の「がんばる」というのは事前の準備に努力することで、考えられるすべての分野の練習をこなし、本番の想定外を予想して準備段階で合理的にハードワークを行い、本番に備える作業のことである。それらを「がんばって」繰り返し、本番においてどのような想定でも100%のパフォーマンス発揮を「楽しむ」のである。簡単に言えば、事前準備を完全にこなし上での「楽しむ」なのである。

「もし何かがかなわなかったとしても、その努力は無駄にはなっていない」

「自分だけでなく、人の演技も応援する」

「絶対あきらめない、あきらめなければ必ず花が咲く」

「悔しい気持ちより、幸せすぎて涙が出て」

「チームのために、仲間を誇りに」

「ずっと隣で支えてくれて感謝しかない」

「十人十色、みんな違っていい」

選手の試合直後のインタビューの言葉である。彼ら10～20代の「ことば」のほとんどがプラス思考でありインクルーシブの発想であることに驚かされた。これだけの「ことば」を選手が日頃から繰り返し書きとめ、それを支えるコーチ陣がどれだけバックアップしているのか。

今スポーツ界では「プレーヤーズセンタード」を提唱し、改めて「場」全体を見直し、それにかかわるすべての人が高まっていく「ウェルビーイング」を目指している。グッドプレーヤーをセンターに置きグッドコーチがいて、グッド保護者、グッド観戦者等、審判やメディアも巻き込み、すべてが高まるポジティブな関係を築き上げている。実際、大谷翔平選手のように自分で考え判断し、自ら伸びていく選手が多数出現することにつながっている。

教育界はどうだろうか。富山県はこども家庭庁が掲げる「こどもまんなか」の趣旨に賛同し、昨年度新田知事が「こどもまんなか応援サポーター宣言」を行った。私たちも主体的で深い学びになるように「teaching」から「coaching」への変換を図り、年齢や立場ではなく子どもたちと対等な関係となり、自発的で自律した児童生徒の育成を目指す努力をしているところである。「こどもまんなか」で周りを取り囲むグッドコーチがいて、グッド家族やグッド地域住民等、教育を応援するサポーターすべてが「ウェルビーイング」を享受できる社会であってほしいと願っている。

各部の研修・事業風景

教育研修部



新採研(幼・保)
「読み聞かせ」指導の様子

科学情報部



自然観察
(観察したものを活用した教材・授業研究)

教育相談部



不登校児童生徒に対する支援推進事業
(体験交流活動「おもしろ科学実験」
葉脈標本づくり)

センターNews

◆ついに総教セInstagram始動！

令和6年12月より富山県総合教育センターの公式Instagramを開設しました。研修・講座のお知らせ、研修風景、調査研究事業等、先生方に役立つ情報を随時発信しています。是非、フォローをお願いします。

◆第42回富山県高等学校生徒海外派遣に向け、代表生徒20名頑張っています！

県内企業の訪問、訪問国の歴史と現状を学ぶ研修、ALTの方々との英会話練習など、様々な研修風景をHPに掲載しました。是非、ご覧ください。



Instagram
二次元コード



生徒海外派遣
二次元コード

令和6年度 調査研究事業の概要

教育研修部

学んだことを生活や学習に活用する力の育成に関する調査研究

— 算数科の授業を通して — (1年次)

「学んだことを生活や学習に活用する力の育成に関する調査研究」と題して、1年次となる令和6年度は、小学校算数科における授業づくりを進めてきました。子供が学んだことを活用している姿を「新たな課題に対して、生活経験や既習事項（これらを広く捉えて「既有知識」と呼ぶことにします）を結び付けながら解決している姿」と定義し、活用する力を育成するための単元構成や教師の働きかけはどうかを研究の視点と位置づけました。

令和6年度は、研究協力校（県内小学校2校）において、第5学年の算数科の授業づくりを行いました。具体的には、内容領域「C変化と関係」の「変わり方を調べよう」と「比べ方を考えよう」の2つの単元で実践しました。

本調査研究を通して、1年次では、次のことが分かりました。

- ・単元を通して子供に身に付けさせたい力を明確化するために、知識や技能を構造化して捉え直すことで、授業展開や評価方法等の単元構成に見通しがもてるようになる。
- ・単元構成の見通しがもてるようになったことで、単元や1時間ごとの学習課題、評価問題、授業における教師の手立てを具体化しやすくなる。

以上のことを踏まえた授業づくりを進めたことで、本調査研究の成果として、子供たちに「新たな課題に対して、既有知識を結び付けながら解決する（＝学んだことを活用する）姿」が見られました。

詳細については、研究発表会（2月）および「研究紀要（第43号）」にて報告させていただきます。



研究協力校との授業づくりの様子

科学情報部

中学校理科における科学的に探究する学習に関する調査研究

— 生徒が自ら探究する授業づくりを目指して — (1年次)

「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説理科編」では、探究の過程が一層重視されるようになりました。富山県では「令和5年度幼・小・中学校教育指導の重点」で、中学校理科において、「科学的に探究する過程全体を通して生徒が主体的に学習活動を行い、それぞれの過程において資質・能力が育成されるよう、指導の改善を図ることが必要である」と明記しています。

科学情報部では、生徒が科学的に探究する学習を進めることができるよう、教師の有効な手立てを明らかにすることを目的とし、次の2つの調査研究を行いました。

— 研究1 —

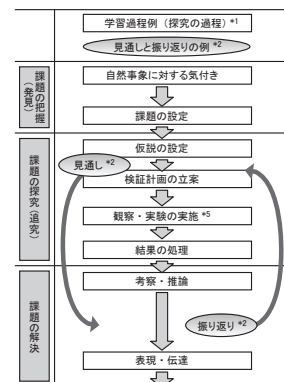
科学的に探究する学習に関する教師と生徒の実態と課題を把握する。

— 研究2 —

生徒が自ら科学的に探究する授業を実践するための教師の手立てを明らかにする。

- 1 生徒が課題意識を高める工夫
- 2 生徒が見通しをもって課題解決に向かう工夫

1年次の調査研究では、「課題の設定」「仮説の設定」「検証計画の立案」において、生徒が科学的に探究する学習を進めるために有効な手立てを検証しました。調査研究を通して、生徒の思考を促す教材と発問の組み合わせが、課題意識を高めるために効果的であることが分かりました。また1人1台端末を用いて、個別で考えたり、グループで議論し、必要な情報を得たりする場面を設定する等、仮説や検証計画を立案するために考えを深め合う活動を設定することが、見通しをもって課題解決に向かうための有効な手立てであることが分かりました。



探究の過程の例
(文部科学省, 2017, p9)



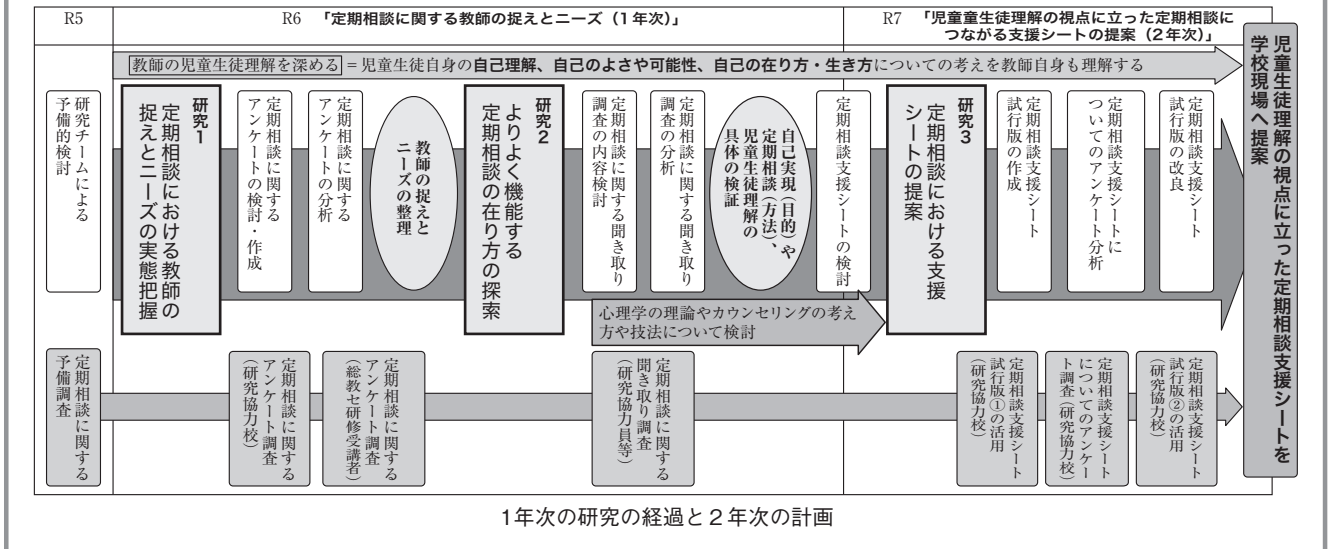
共同編集機能を用いて仮説を入力している様子

児童生徒理解を深める教育相談の在り方に関する調査研究

— 定期相談に関する教師の捉えとニーズ — (1年次)

教育相談部では、各学校で実施されている定期相談に着目し、定期相談を教師と児童生徒との関係性を築く機会の一つと捉え、児童生徒の自己実現に向けた教育相談としてよりよく機能することが必要ではないかと考えました。ここで、教師の児童生徒理解が深まる児童生徒との関わり方を探り、児童生徒が安心して臨める定期相談とはどのようなものかについて検討し、定期相談における支援シート（仮称）等の支援ツールを考案し、学校現場に提案したいと考えています。

1年次の調査研究では、教師が定期相談をどう捉え、どのようなニーズをもっているか等の現状を把握し、その効果や課題について整理しました。また、現状の児童生徒理解の捉えに偏りがあるとすればどのようなことか、児童生徒理解の視点に立つために私たちにできることは何かということも踏まえ、児童生徒の自己実現に向かうためによりよく機能する定期相談の在り方について検証していきました。現段階で明らかになっていることについて、詳しくは発表会や研究紀要等で報告します。



センター事業より

ALTとともに英語漬けの2日間！

～外国語指導助手の指導力等向上研修会～

(教育研修部)

11月13日(水)、14日(木)の2日間にわたって、外国語指導助手の指導力等向上研修会が開催されました。この研修会はJETプログラムに参加する、すべてのALTと日本人外国語教員(JTL)を対象として、一層効果的な語学指導ができるよう必要な知識・指導技術等の習得を目的としています。今年度は高等学校・特別支援学校・小学校・中学校・義務教育学校の全校種から、2日間で合計152名が受講しました。

2年目以上の再任用ALTが運営する分科会は、授業で使えるアイデアから職場での人間関係や異文化交流、日本での生活に役立つもの等、多岐に渡り、受講者は事前に自分に必要な分野や興味のある分野の分科会を選択して参加しました。

また、今年度は常葉大学 新妻明子准教授を講師としてお招きし、1日目には「ピーターラビット」や「銀河鉄道の夜」を題材に日英比較や翻訳体験をするセミナーを開講していただき、2日目には、ALTとJTLが協力して行うアウトプット中心の授業展開について、理論や実践例を交えて講演していただきました。



ALTとJTLが協力して翻訳体験



研修で学んだことを共有する受講者

受講者の声

- ◎小規模なワークショップの中で安心して自分の考えを共有することができ、有意義な討論ができた。
- ◎他のALTやJTLと協力して授業計画を立てることができ、教科書をベースに授業計画を立てるためのさまざまなアプローチを開けて良かった。
- ◎講演ではALTがJTLに対して抱えている問題を知り、自分の学校のALTと話し合うことができた。学校に戻って他の先生たちと共有したいと思う。
- ◎単語の正しい発音を学ぶ良い機会だった。生徒に英語の発音を教えるには、子音をもっと練習する必要があると思った。
- ◎一日中ネイティブの英語を聞くことができ、とても幸せな1日だった。



センター事業より

明日からの校務や授業に活かすICT研修 ～情報教育室が支援します～ 情報教育訪問研修

(科学情報部)

情報教育室では、小、中、高、特の教員や校長等を責任者とする教育関係団体を対象として、校務や授業でのICT活用について、各学校等を訪問し、研修を行っています。情報教育に関する指導力の向上を目的とした研修テーマを設定していますが、事前打合せを踏まえ、各学校等のニーズに合わせてカスタマイズした研修を実施しています。今年度は、最新のICTツールの使い方や生成AIの活用に関する研修の要望が多くあり、延べ300名を越える方が訪問研修を受講しました。次年度は、オンラインでの研修も始めます。以下の今年度の研修の様子も参考にして、次年度、是非ご活用ください。

令和6年度 情報教育訪問研修 5月～12月

| | | | |
|---|---|--|---|
|  |  |  |  |
| <対象> 魚津市小・中学校 | <対象> 雄山高校 | <対象> 小矢部市小・中学校養護教諭 | <対象> 新川地区高等学校教頭 |
| <主な内容> Teamsの活用 | <主な内容> Canva, FigJam等の使い方 | <主な内容> Canvaの校務での活用 | <主な内容> 生成AIについて |

受講者の声

- ◎Formsでの小テストの作成は初めてだったので、今後使える機会を見つけて活用していきたい。
- ◎FigJamは多機能なので、探究活動やHRで行う生徒会からの提案についての話し合い等で用いてみたい。
- ◎Canvaで簡単にポスターやプレゼンテーションを作成できるのは、仕事の効率があがると感じた。
- ◎有意義な研修だった。生徒のためにも生成AIについて早く学ばないといけないことを改めて実感した。

「不登校児童生徒に対する支援研修会」 で見方を広げてみませんか？

(教育相談部)

本研修会は「不登校児童生徒に対する支援推進事業」の一環として行っており、各市町教育支援センター（適応指導教室）指導員やフリースクール等民間の支援団体を参加対象としていますが、3回のうち、1回目と2回目については、対象を小・中・高、特別支援学校教員に拡げ、オンラインでも研修に参加いただけるようにしました。

1回目は、教育機会確保法文部科学省キャラバン講演会として文部科学省初等中等教育局の上久保秀樹氏に「COCOLOプランに沿った不登校対策について」のご講演をいただきました。講演後には様々な立場や職種の方が集まり、意見交換会が行われました。2回目は新潟大学の神村栄一氏を講師に迎え、急増する不登校の新しい理解と支援の在り方についてお話しいただきました。3回目はSwitch不登校の子どもと親の会の小澤妙子氏を講師に迎え「子どもたちのために大切にしていること」と題して講演いただきました。講演後にはグループ協議を行い、それぞれの立場から子供たちのためにできることを話し合いました。

不登校児童生徒に対する支援の在り方は様々です。見方を広げてみませんか？



第3回研修会

特別支援教育に関する研修を 行っています！

(教育相談部)

教育相談部特別支援教育担当では、市町教育センター等のニーズに応じて教育相談や特別支援教育に関する研修の内容や方法を一緒に計画し行っています。

～今年度市町教育センターで行った研修会～

- ◆通級指導教室担当の先生達と一緒に、様々な特性のある児童生徒のニーズに合った自立活動の指導目標や指導内容について考えました。
- ◆スタディ・メイトや教育支援センターの先生方と一緒にスタディ・メイトの役割や心構え、障害種別による支援のポイント等について考え、架空の事例を用いて事例検討を行いました。
- ◆通常の学級で特別な支援が必要な児童生徒の理解と接し方、ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営と学習指導についての講義や子供の行動から気持ちや背景を考える演習を行いました。
- ◆就学相談を行う際の保護者との面談のポイントや、対象の子供を見るときのポイントについての講義を行いました。また、保護者面談のロールプレイにも挑戦してもらいました。

次年度の申込みも現在受付中です。
是非、ご活用ください。



随想1

それ、研がないと切れませんよ？ ～教師と斧と学び～

学力向上アドバイザー 中川 邦章

「木こりと旅人」というイソップ寓話をご存じでしょうか？

旅人が朝、森を通ると、木こりが斧を振り懸命に木を伐っていました。
夕方、帰り道で再び森を通ると、木こりは木を伐り続けていましたが、斧の刃は鈍っているようで木がなかなか倒れません。
旅人は木こりに声をかけました。「お前さん、少し休んで斧を研いだらうかい？」
木こりは答えました。「斧を研ぐだって？木を伐るのに精一杯で、そんな暇はないんだよ」

この話を現代に置き換え、森を学校、木こりを教員と考えると、似たような光景が思い浮かぶかもしれません。日々奮闘されている先生方からは、「生徒指導やトラブル対応で余裕がない」「授業準備や採点に追われて時間がない」といった声が聞こえてきそうです。学校現場は多忙を極め、働き方改革は喫緊の課題です。しかし、私たちは多忙を理由に、この木こりのように目の前の業務（授業、生徒指導、学校行事など）をこなすことだけで手一杯になっていないでしょうか？それぞれの教育活動の目的は何か。それ

を達成するために自分に何が足りないのか、何を身につけるべきか。こうした問いを持ち、広い視野で自己を見つめることが必要だと思います。

校内研修や悉皆研修を受け身で受けるだけでは、子供たちの学びをより良いものにしたり豊かな成長を支えたりすることは難しいでしょう。また、指導スキルや専門知識を磨く研修だけでなく、旅行や芸術鑑賞、趣味、様々な人々との交流などに時間やお金を投じて、人間性や創造性を高めることも、同じくらい大切だと思います。

最後に、私自身の反省を。

10年ほど前から、老眼鏡なしでは手元の文字が読めなくなり、それとともに書籍を進んで手に取らなくなっていました。その結果、知識を深め視野を広げる機会を自ら閉ざしていたように思います。教員として最後の10年は「斧を研ぐこと」を怠っていたのではないかと感じ、学び続けることの重要性を改めて考えさせられています。



随想2

研修を受講した先に待っているもの

教育研修部長 野崎 悟

4月から若手研、新採研、6年次、中堅研等々、数多くの研修がセンター研修室内外で行われました。大学教授等の話を受講者と一緒に聞いたり、協議を拝見したり、先生方が熱心に研修に参加している姿を見てきました。

変化の激しい昨今の社会において、教員に求められる能力は多様化しています。先生方には研修の「目標」を意識していただき、研修を終えた後、「今日はこのようなことを学んだ」というお気持ちでお帰りいただきたい。教育研修部としてはこのような気持ちで研修を企画運営しています。

私は、「教員の力量の深まりを支援する」という考えのもと、研修を通して先生方に「学習指導」「特別支援教育」等の理解を一層深め、教員としての幅を広げていただきたいと切に願っています。研修後、ご自身を省みた時に成長しているご自分の姿を思い浮かべていただき、教員としての自信を更に深めてもらいたいと思っています。そして、ご自身の経験を振り返り、研修での学びと関連付けることで、自分事として捉えられるのではないかと考えています。私自身のことで恐縮ですが、年齢を重ねるごとにその日の研修での新しい発見に喜びを感じるようにな

りました。そして、現在、教育研修部長という立場から日々の研修を拝見し、「先生方に成長してもらいたい」「より大きく育ってほしい」と思いつつ、一つひとつの研修を見守ってきました。

ぜひ先生方には、研修を受講した後、一回り大きく成長した自分自身を想像し、頑張ったご自分をほめていただきたいと思っています。そして、研修受講の後に待っている成長したご自分の姿を目標にして、今後も研修を受けていただき、一歩ずつ教師力を高めてもらいたいと願っています。

これからも教育研修部は先生方に魅力ある研修を提供して、先生方が主体的に学び続けることができる仕組みと機会を保障することで、児童生徒にとって質の高い教育を提供する土台作りを担っていきたいと思っています。新たな気付きを促進する場として、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。





LED電球はどれくらいエコ？



科学情報部 研究主事 木下 正博

人類は、灯りを得たことで夜でも不自由なく活動ができるようになりました。灯りの歴史を見ると、人類は長い間、物を燃やして光を得ていました。しかし今では、照明のほとんどは電気によって灯されています。現在、主な照明には白熱電球、蛍光灯、LEDがあります。その歴史は、1879年に白熱電球、1938年に蛍光灯、1996年に白色LEDが実用化されています。

一般にLEDは、消費電力が少なくエコといわれています。LEDには「光を出す半導体=LはLight (光)、EはEmitting (出す)、DはDiode (半導体)」という意味があり、光る仕組みは、電気を通すと中の発光ダイオードとよばれる半導体が光ります。それでは、LEDはどれくらいエコなのでしょう。同じ明るさで、消費電力(ワット=W)を比べると分かります。表からは、LEDの消費電力は白熱電球の約1/8、蛍光灯の約2/3であることが分かります。消費電力は電気料金に反映されるので、LEDがいかにエコかが分かります。それでは、光に変換されなかった電気エネルギーはどうなるのでしょうか。そのほとんどは熱に変換されます。LEDは、電気エネルギーの多くが光に変換されるため熱くなりませんが、白熱電球や蛍光灯は、10～20%しか光に変換されず多くのエネルギーが熱に変換されるので熱くなります。また、エコの観点からは、

照明の寿命も大きく影響します。LEDは白熱電球の約20倍、蛍光灯の約2倍長持ちします。白熱電球や蛍光灯をLEDに交換することで、ゴミを減らすことができ、節電、節約にもなります。現在、富山県総合教育センターも所内のLED化工事を進めているところです。

エコなLEDですが、さらにユニークな特徴があります。それは、白熱電球や蛍光灯の光には、可視光線の他に赤外線や紫外線が含まれていますが、多くのLEDは赤・紫外線を出していません。虫が外灯に集まる原因の一つに紫外線の影響がありますが、灯りをLEDに交換するだけである程度防ぐことができます。

| | 白熱電球 | 蛍光灯 | LED |
|-------------|---|--|--|
| |  |  |  |
| 点灯時間 | 1,000～2,000時間 | 6,000～13,000時間 | 20,000～40,000時間 |
| 特徴 | <ul style="list-style-type: none"> ・暖かみのある色合い ・価格が比較的安い ・点灯したときにすぐ熱い | <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな形がある ・点灯までに時間がかかる ・点灯したときに熱い | <ul style="list-style-type: none"> ・発光するLED部が小さい ・紫外線をほとんど出さない ・点灯しても熱くない |
| エネルギー変換効率 | 10% | 20% | 30～50% |
| | (電気エネルギーが光エネルギーに変換される割合) | | |
| 消費電力(ワット=w) | 60W | 12W | 8W |
| | (白熱電球60W相当の明るさで比較) | | |

教育相談 コラム

それってあなたの思い込みでしょうか？

教育相談部 客員研究主事 濱野 恵美

突然ですが、「単身赴任している親」「育児休暇を取るのは？」「乳がんになった私」と聞くと、男性・女性どちらを思い浮かべましたか？また、血液型がO型の人、A型の人性格はどんなでしょうか？高学歴の人は優秀？そして、よい教師とはどんな人？

先日アンコンシャス・バイアス(以下アンコン)についての研修会に行ってきました。アンコンとは、私たちが物事を見聞きし、感じたときに、「無意識に“こうだ”と思い込むこと」といわれています。日本語では、無意識の思い込みとも表現され、「他人」に対するだけでなく、「自分自身」や、「モノ」に対するもの等もあり、誰にでもあって、日常にあふれています。それらは過去の経験や見聞きしたことに影響を受けており、完全になくすことはできません。しかし、アンコンに気づかないと「普通はこうだ」「こうあるべきだ」「どうせムリ」などと決めつける言動に表われ、こちらの思い込みで過度に期待したり、落胆したり、気づかないうちに相手を傷つけるだけでなく、自分自身もがんじがらめにして苦しむ可能性があるかもしれません。

できそうな対応方法として、3点紹介します。

- 1【意識すること】「これって私のアンコン？」と、自らのアンコンに気づこうとすること。
- 2【決めつけに注意】「～すべき」「普通は・・・」「どうせ・・・」に注意！つつい決めつけないこと。
- 3【相手のサインに注目する】家族や友人、同僚との会話で、相手の表情や声のトーンが変わったりする変化を見逃さない。相手の思いを聞いて、対話することを大切にしてみましょう。

「前はこれがあたり前だった」と思うことが、今や将来とでは違うこともあるかもしれません。私自身多くのアンコンがあり、余計な期待や心配を抱いていたことに気がつきました。自分はどうかな？と少し意識してアンコンについて考えていくことが、自分も楽になり、多様性を認め合う社会の実現の一歩になるのではないかと思います。

